

2024.4.15

「Drafting Futures. Conversations about Next Perspectives」 未来を描く。次なる展望についての対話

Formafantasma の協力のもと、今年のみラノサローネでは、現在を理解するだけでなく、未来を想像するための横断的なテーマについて、豊富なトークとラウンドテーブルのプログラムが開催されます。プリツカー賞受賞者のフランシス・ケレからジョン・ポーソンまで、コンテンポラリー・シーンで最も輝くスターたちが主役となります。

坂茂、田村奈穂、スノヘッタ、MAD アーキテクトといった著名人による昨年の成功に続き、2024 年のトーク & ラウンドテーブルも豊かな文化的プログラム、「Drafting Futures. Conversations about Next Perspectives (未来を描く。次なる展望についての対話)」を開催。アンナリーザ・ロッツによるキュレーション、すでに存在する明日に向かって、今日私たちが持つ機会と責任について考えることを促すことを目的としています。

ミラノサローネは、家具業界のビジネスにとって最も重要な場であると同時に、長年にわたり、直接的な出会いや見解の交換がいかにか成長の機会であり、横断的かつ広範囲な好影響をもたらすかを認識する、不可欠な文化的な場ともなっています。新しいプログラムは、トーク(午前)とラウンドテーブル(午後)という 2 つの異なるフォーマットで、国際的なプランニング界で最も興味深い人物を招き、プロジェクト、デザイン、建築が、現在を認識し分析するだけでなく、何よりも未来を想像し、新たな可能性を切り開き、可能性をふるいにかける、直感と想像力をいかに活性化させることができるかを意図しています。一方、「The Infinite Conversations (無限の対話)」でマリア・ポッロ代表と対談するハンス・ウルリッヒ・オブリストは、対話の機会、優れた思想家同士の出会い、アイデアの自由な流れは、進化と知識の絶対的な原動力だと語ります。

午後のラウンドテーブルでは、ジェノヴァ国際ボートショーとのコラボレーションによるボートとデザインの関係、人工知能の活用、ホスピタリティ分野の革新など、デザインと建築にとって重要なテーマについて、権威ある人々が意見交換をします。

この濃密なパリンプセストの舞台となるのは、フォルマファンタズマが手掛けたドラフティング・フューチャーズ・アリーナで、前回のシートを再利用し、抽象的なデザインがプリントされたカーペットで覆われます。

アリーナでは、サローネ・ライブラリーの新企画の発表も行われます。これは、過去に開催されたものも含め、スピーカー自身が未来志向のインスピレーションを得るために提案した本のセレクションです。

このトークセッションは、全米建築家協議会 (CNAPPC: Consiglio Nazionale Architetti, Pianificatori, Paesaggisti e Conservatori) のトレーニングとして認定されており、参加者は各回 2 単位を取得することができます。

4 月 17 日(水) 11:00 (英語)

フランシス・ケレとジュリア・リッチの対談

2022 年にアフリカ人として初めてプリツカー建築賞を受賞した建築家、フランシス・ケレは、持続可能性と社会的包摂に対する深い感受性を特徴とし、清潔な水へのアクセスや教育の促進など、世界的な課題に取り組むための強力なツールとなりうる建築のあり方を示します。建築家、ジュリア・リッチ(『ドムス』記者)との対談。



4月18日(木) 11:00 (英語)

ジョン・ポーソンとデヤン・スディッチの対談

建築の役割とコンテンポラリー・デザインの深い意味について、2人の優れた視点から語り合います。建築家ジョン・ポーソン(デザインと建築への貢献により大英帝国勲章コマンダー)、作家、キュレーター、批評家デヤン・スディッチ(ロンドンのデザイン・ミュージアム名誉館長、大英帝国勲章オフィサー)。

4月19日(金) 11:00 (英語)

ジャンヌ・ギャングとジョアンナ・アガーマン・ロスの対談

建築界で最も影響力のある人物の一人であるジャンヌ・ギャングは、人と地域社会と自然とのつながりを創造するプロジェクトで知られています。ロンドンのデザイン・ミュージアムのチーフ・キュレーターであるジョアンナ・アガーマン・ロスとともに、既存の建築遺産の文化的・環境的価値をより深く認識し、コミュニティに美と新たな機会を与えるような形で拡張していくにはどうしたらよいかを議論します。また、スタジオ・ギャングの創立パートナーであり、ハーバード大学デザイン大学院の教授でもあるギャングの最新刊『*The Art of Architectural Grafting*』(建築/接ぎ木の芸術)を読み解き、園芸技術である接ぎ木がいかにかに持続可能なデザインの新しいパラダイムを生み出すインスピレーションの源となりうるかを紹介します。

4月20日(土) 11:00 (英語)

マリア・ポッロとハンス・ウルリッヒ・オブリストの対談

ミラノサローネ代表のマリア・ポッロと、ロンドンのサーペンタイン美術館のアーティスティック・ディレクターであり、世界で最も影響力のあるアート・キュレーターの一人であるハンス・ウルリッヒ・オブリストによる、デザインの新たな視点に捧げる対談。建築とデザインの分野で影響力のある2人の視点を通して、近未来を定義する課題と機会を探る機会です。

4月18日、19日のトークの最後には、ホール14のDrafting Futures Arenaに隣接するCorraini Mobile Bookshopにて、ジョン・ポーソンとジャンヌ・ギャング『*The Art of Architectural Grafting*』(Deyan Sudjic, John Pawson: *Making Life Simpler*, Phaidon)のサイン会が開催されます。

ラウンドテーブル 2024

「未来を描く。次の展望についての対話」

キュレーター: アンナリーザ・ロツソ

ドラフティング・フューチャーズ ホール14 アリーナ

4月16日(火) 16:00 (イタリア語)

「ボートとデザイン: メイド・イン・イタリアのポジティブな影響」

協力: ジェノヴァ国際ボートショー

ボート産業の発展においてデザインの役割がいかにかに重要となっているかを理解するための、デザイナーと企業による討論会。

<パネル>

- アダム・D・ティハニ / ティハニ・プロダクト・デザイン、デザイナー
- キアラ・マッサラーニ / 建築家、シニア・プロジェクト・ディレクター、ACPV ARCHITECTS アントニオ・チッテリオ・パトリシア・ヴィエル
- ステファノ・デ・ヴィーヴォ/フェレッティ・グループ最高執行責任者兼 Wally マネージング・ディレクター
- フランチェスカ・アットゥオーニ / バリエット・インテリアデザイン部長
- セルジオ・ブッティグリエリ/サンロレンツォ スタイルディレクター

<モデレーター>

- ルイーザ・ボッキエツト、建築家、ジェノヴァ国際ボートショー デザイン・イノベーション賞運営委員会



4月17日(水)16:00(英語)

「フォーム・フォローズ・フォーミュレーション:マリア・クリスティーナ・ディデーロとイソップとの対話」

この会では、イソップの型破りなビジョンの形成に貢献した人たちとともに、イソップのデザインとカスタマー・エクスペリエンスの原則が、製品の処方方法にどのように反映され、またそこからどのように導き出されているかを探ります。

<パネル>

- スザンヌ・サントス /イソップ最高顧客責任者
- マリアンヌ・ラルディユー /イソップ グローバルストアデザインディレクター
- ジャン=フィリップ・ボンヌフォイ /イソップ・ヨーロッパ・リテールデザイン部長

<モデレーター>

- マリア・クリスティーナ・ディデーロ/作家、デザイン・キュレーター

4月18日(木)16:30(イタリア語)

「家具部門、メイド・イン・イタリーの卓越性:サプライチェーンの国際的発展のための戦略的投資と競争優位性」

主催:インターザ・サンパオロ

家具産業は、2年にわたる力強い成長の後、複雑な2023年を迎えようとしています。持続可能性と投資は、デザイン、持続可能なイノベーション、創造性、品質が卓越したメイド・イン・イタリーであるこの分野の国際的発展の戦略的推進力です。このセクターが進んでいるシナリオを概観した後、いくつかの企業や新興企業が成長の道筋を紹介します。最後に、サプライチェーンの競争優位性と国際的発展を支援するための洞察とツールが提供されます。

<パネル>

- アンナ・ロシオ/インプレーゼ・インテサ・サンパオロ セールス&マーケティング エグゼクティブ・ディレクター
- ステファニア・トレンティ/ インテサ・サンパオロ調査研究部産業・地域経済調査部長
- ジョルジョ・カスターニョ/ウェーブ創設者
- ステファニア・ラッツァローニ/アルタガンマ財団事務局長

<モデレーター>

- ルドヴィカ・セラフィーニ+ロベルト・パロンバ/建築家・デザイナー、スタジオ・パロンバ・セラフィーニ創設者

4月19日(金)16:00(英語)

「ホスピタリティの新しい形」

急速に進化を遂げ、新たなビジネスチャンスと開拓すべき市場を発見しつつあるこの分野に特化したアポイントメント。大手ホテルグループの顧客層と国際的デザイナーの比較。

<パネル>

- ウー・ビン /デザイナー、W.DESIGN 創設者
- ダヴィデ・アンジェリ/ AMDL サークル副社長
- アンドレア・オベルテッロ /フォーシーズンズ・ホテル・ミラノ 総支配人
- アントニオ・ドゥチェスキ /スターホテルズ・グループ、チーフ・コマーシャル・オフィサー

<モデレーター>

- ローレン・グレース・モリス、FRAME デジタル部門責任者



4月20日(土)16:00(英語)

「人工知能の現在と未来」

人工知能(AI)について誰もが話題にする昨今、それを取り巻く誇大宣伝が根拠あるものであれば、生活の中でAIと無縁でいられる局面はほとんどないでしょう。各国政府は、人工知能の使用から生じる可能性のある損害に目を光らせており、EUは最近、このテーマに関する初の規制であるAI規制を可決しました。AIの無限の可能性によって、かつてないほどデータを分析したり、書面によるプロンプトに基づいて建築のマスタープランを作成したりすることがすでに可能になっており、デザインの世界もこうした重大な変化を避けられないでしょう。私たちは、建築とデザインの分野にとってAIが何を意味するのかを議論し、AIが業界のための単なるツールのひとつに過ぎないのか、それとももっと広範で破壊的な影響を及ぼす可能性を秘めているのかを理解に努めます。

〈パネル〉

- パオロ・チウッカレッリ/ノースイースタン大学(ボストン)デザイン・センター・ディレクター、ミラノ工科大学 DensityDesign Lab 創設者
- シェリフ・タラビシー/フォスター+パートナーズ、アソシエイト・パートナー
- ハネス・コッホ、フローリアン・オルトクラス/ランダム・インターナショナル芸術監督兼共同創設者

〈モデレーター〉

- エド・ストックカー/モノクル ヨーロッパ編集長

本件についてのお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it